

# 大社町の環境デザイン

石野 眞\*

Study on Environmental Design in Taisha

Makoto ISHINO

## I デザインと現代社会

ひとはデザインする動物であり、人間の歴史はデザインの歴史である。<sup>1)</sup>

1989年は、フランス革命200周年、そして日本では、デザインイヤー、名古屋市において、世界デザイン会議とデザイン博覧会が開催された。

89デザインイヤー運動は、「デザイン」を通じて新しい時代における生活と産業、文化のあり方を国民の各分野のなかで問い直そうとする運動として、また1990年代のデザイン活動の強い基盤づくりを目的として全国各地で300以上のさまざまな事業がおこなわれた。

島根県では、本年、平成3年11月に文化デザイン会議島根'91<sup>1)</sup>が開催され、デザインへの関心も一層高まって来ている。

現代社会は、科学技術の進歩と発展による工業生産の時代から情報化社会へと変遷、20世紀のおわりの10年がとくに文化の時代、美の時代として展開しようとしている。

新感覚の代名詞のように使われるデザインという言葉は、人類の歴史とともに古く、そして新しい。通産省が中心となって推進して

いる'89デザインイヤーでは、デザインとは「人間の幸せという大きな目的のもとに、創造力、構想力を駆使し、私たちの周囲に働きかけ、様々な関係を調整する行為の総称」であるといっている。

古来、人は厳しい自然に対決しながらより良い生活を求めて、沢山の道具を初めとする機器をつくりだして来た。こうした道具や機器は、一つ一つの手作りの仕事から、量産される今日の機械生産を経て、工業デザイン=インダストリアル・デザインと呼ばれ、機器デザイン=プロダクトデザインとして、デザイン活動の領域を形成している。

また人と人とのより良い伝達活動は、伝達のデザインすなわち、色や形の言葉、造形言語の表現として、商業デザイン、宣伝デザイン、グラフィックデザインと呼ばれ、視覚伝達デザイン、ヴィジュアルコミュニケーション・デザインとして、ポスターやカバーデザイン、シンボルマークや標識やサインとして、私達の生活に欠かせないものとなっている。

特に、CIすなわちコーポレートアイデンティティは、シンボルマークとロゴタイプ、テーマカラー等により、企業や自治体のイメージを統一して従業員や市町村民の高識向

\* 島根大学教育学部美術科教育研究室

上、理念の形成をめざす手法として注目されている。

こうしたCIは、今日ますますその重要性が認識され、企業や地域社会に導入されて成果を挙げている。

社会と自然との関わりの中で、人はより良い環境の形成と整備に努め、室内のデザイン・インテリアデザイン、住まいや公共施設のデザイン、町並みや市街の調度品・ストリートファーニチャーから街路や都市のデザイン、国土計画まで、環境のデザイン＝エンバイロメントデザインとしてデザインの拡がりを持っている。

フランス生まれのアメリカのデザイナー、レイモンド・ローウィが言うように「口紅から機関車まで」、「マッチ箱から高層建築まで」私達の生活は、何ひとつデザインに関わらないものはない。

こうしたデザインの拡がり、特に環境デザインにおいて、大社町の町づくりと活性化、活路開拓のビジョンの形成をデザインの視点から考え、大社町のアメニティを探り、提示し、方向づけるため、大社町活路開拓ビジョン調査事業環境デザイン・サイン計画委員会が結成され観光客及び町民の意識調査と現状調査に基づいて、大社町のサイン計画、看板の現状調査等を経て、「大社町デザイン整備計画事業」が推進された。

本研究は、出雲大社と日御碕灯台のある町、島根県簸川郡大社町が、「ふるさと創生」事業の一環として策定した大社町まちづくり計画の重要事業として、大社町環境デザインの中心となる「大社町サイン整備計画事業」について考察し、「大社町サイン整備計画事業」の基本理念を表現するシンボルとして制作された木彫のレリーフ・シリーズの完成を機会に、

これまでの大社町まちづくり計画と「大社町サイン整備計画事業」の展開と発展について考察し、将来計画を展望する。

## II アメニティ・大社

いにしへの昔より、大社は神々の相集うところ、それは又、人々の寄り集うところでもあった。美しき聖所・メッカとして大社は、平成の世すなわち現代にその魅力のありかたを問いかけられている。

島根県では、郷土出身の竹下元首相の提唱になる「ふるさと創生」を基本理念に「リフレッシュ・リゾートしまね」「海と山のフロンティア」構想にもとづくリゾート構想など、島根の魅力をつくりだす活性化政策がすすめられている。

大社町は、出雲大社、国立公園日御碕という2つの歴史的、自然的観光資源を有する全国有数の観光地である。

特に古代出雲を想起させる出雲大社は縁結びの神様としても知られる町の中心として、伝統の祭りと行事も多く、歌舞伎の祖・出雲阿国の出生地、日御碕国立公園・海中公園、古代遺跡や出雲風土記に記される古代神話・国引きと国譲り神話に代表される神話・伝承、ロマンの地として山陰観光のメッカである。海産物も美味、名産品も豊かで、民芸品も多く、豊かな観光資源に恵まれ、古くから文人墨客をはじめ参拝客訪問客も多い。

近年滞留客の減少が著しく、観光案内情報の展開に対策が望まれるとともに、訪問客に、親切でわかりやすい、美しい案内と現代の大社にふさわしい、伝統をふまえた近代感覚あふれるサイン計画が期待されている。

観光立町としては、昭和48年の328万人を

ピークとして昭和60年には200万人と大きく観光客は減少し、観光ニーズの変化・変貌にとまどっている。近年、島根ワイナリーの建設とその整備、歌舞伎の大お練り、出雲大社神苑コンサートといった経済・文化活動における新しい動きもあり、まちむら活性化事業を受けてまちづくりは活発で、見通しに明るさが出て来ている。

こうした中で、大社町では、国の補助事業である活路開拓ビジョン調査事業の指定を受け、島根県中小企業団体中央会の交付金を受けた共同組合大社ショッピングセンター・エルが、大社町役場、町商工会、絢う会21とともに「観光を中心とした大社町の活性化のための基礎的調査研究」をメインテーマに、次の5つのサブテーマと分科会を設定し、調査研究を行った。

### 1. 観光イベントの創造と研究

大社町の地域的特性と歴史的文化的資産を活かすイベントの調査研究

### 2. 環境デザインとサイン計画

大社町の地理的、歴史的特色を活かす町並み修景と観光サイン計画の調査研究

### 3. 個性的店づくりと特産品

大社町の観光並びに地域商工業活性化の核となる個性的企業の育成のための調査研究

### 4. 滞在型観光の開発と研究

大社町への通過型から滞在型に観光客のウエイトを移すための基礎的調査と研究

### 5. 地域情報ネットワークの研究

大社町の観光情報ネットワーク、商工業情報ネットワークと地域住民の福祉を目的とした町民ネットワークを融合化した地域情報ネットワークを構築するための調査研究

この調査・研究において石野は、島根大学教授・野本晃史、前島根大学非常勤講師・青木一彦氏とともに、専門委員・アドバイザーとして参画、昭和63年度活路開拓ビジョン調査事業報告書「観光を中心とした大社町の活性化」を平成元年3月に作成した。

この調査・研究の成果は、大社町において平成元年度事業の中に組み込まれ特に、「観光を中心とした大社町の活性化」研究における第2部会での「環境デザインとサイン計画」は、「大社町サイン整備計画事業」として、実現した。この活路開拓ビジョン調査事業で、環境デザイン・サイン計画委員会が発足した。

「環境デザインとサイン計画」——大社町の地域的歴史的特色を活かす町並み修景と観光サイン計画の調査研究における環境デザインとサイン計画の概要は次のとおりである。

#### 1. 大社町の名所・旧蹟のリストアップ

名所・史跡・遺跡・文化財・天然記念物・名樹・庭園・社寺・その他の観光施設等

#### 2. 既存看板の現状調査

- ・現地において写真撮影
- ・地図上の位置確認
- ・形状、大きさ、材料、素材の調査

#### 3. 看板台帳の作成

#### 4. 看板の分類

- ・主体別／行政・国、市、町、教育委員会、観光協会等
- ・目的と用途別／広告看板、案内看板、説明看板(由緒板)、標示板、案内標識、誘導標識

#### 5. 新設場所調査

#### 6. サイン・イメージの調査

### Ⅲ 大社町サイン整備計画事業

「大社町サイン整備計画事業」は、大社町役場が、竹下登元総理の提唱になる「ふるさと創生」事業の一環として策定した大社町まちづくり計画である。

大社町役場では、JR大社線廃止後の観光行政に際して、古川百三郎町長をはじめとして、企画財政課が中心となって「歩いて楽しい大社のまちづくり」、「歴史と文化を感じるまちづくり」を構想、デザインの重要性を認識しながら、その創造性と開発、発想と制作の手法を取り入れて実践した。石野は、この大社町サイン整備計画事業の総合アドバイザーとして計画と実施の全てについて参画、役場当局と協議、過去と現実をふまえてながら未来の大社町にふさわしい「サイン計画」の策定を指導した。



▲ 大社町サイン整備事業計画委員会

### Ⅳ 大社町サイン整備計画の経過

大社町サイン整備計画事業の構想経過は次のとおりである。昭和62年に発足した進歩自由夢愛実行委員会委員長高橋文夫氏による「活性化フォーラム87ふるんてあ大社・まちづくり元年でっかい大社のまちづくり」にはじまる町民を挙げてのまちづくり構想から、昭和63年、国の補助事業である活路開拓ビジョン調査事業の指定を受け、島根県中小企業団体中央会の交付金を受けた共同組合大社ショッピングセンター・エルと大社町役場、大社町商工会、絢う会21による「観光を中心とした大社町の活性化のための基礎的調査研究」を行った。

特に、活路開拓ビジョン調査事業における「観光を中心とした大社町の活性化のための基礎的調査研究」の「環境デザインとサイン計画」部会では、大社町の地理的、歴史的特色を活かす町並み修景と観光サイン計画の調査研究の成果が進捗し、大社町役場のまちづくり構想具体化の緊急性に迫られて、時宜を得て「ふるさと創生」の事業の一環として実施された。

### Ⅴ 大社町サイン整備計画の内容

「大社町サイン整備事業計画」は平成元年度に大社町役場が観光サイン整備事業として策定した。まず既存看板等の現成調査と分類、名所・旧跡のリストアップ、サインイメージの調査とサイン台帳の作成を行い、サインの統一化、サインのシステム化、表示内容のデータベース化、設置のルール化等について検討した。

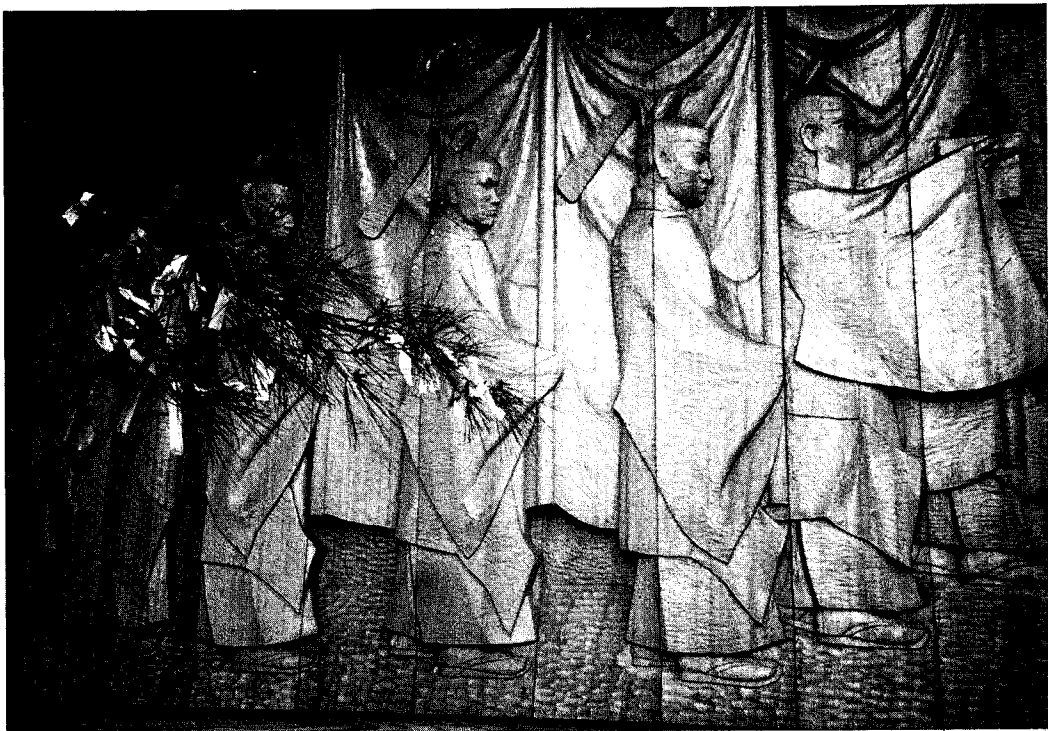
主な内容は次のとおりである。

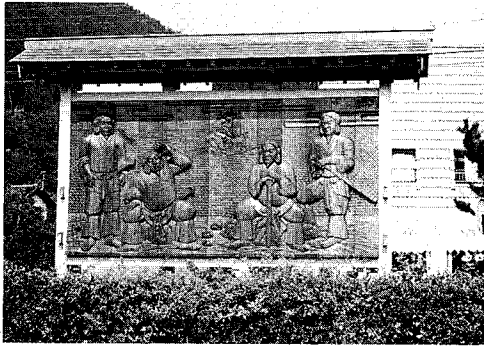
## 1. 大社町の歴史と文化を表現する木彫レリーフ

「大社町サイン整備事業計画」の基本的理念を表現するシンボルとして位置づけ、全体計画に基づき制作のテーマを大社町のイメージ、神話と歴史・文化の中から「神迎え神事」、「国譲り神話」、「出雲阿国」、「大土地神

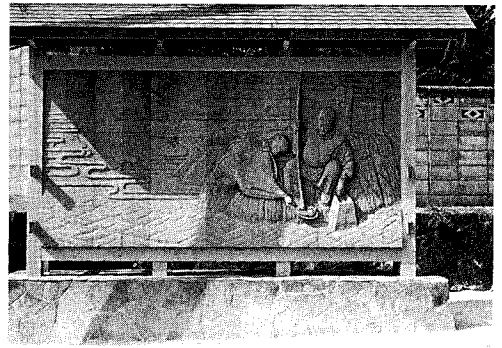
楽」、「夕日とうみねこ伝説」の5つとして、芸術性豊かな手法で制作した。彫刻の監修は、「大社町サイン整備事業計画」の構想に基づき、島根大学の倉澤實教授が指導した。

### ▼「神迎え神事」

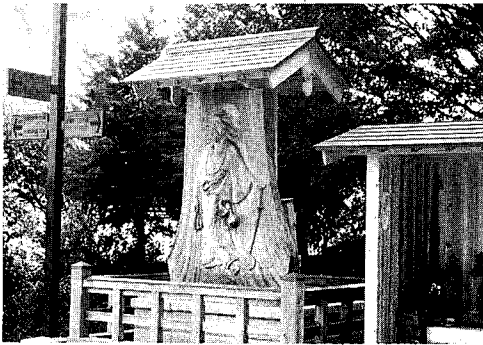




▲「国譲り神話」



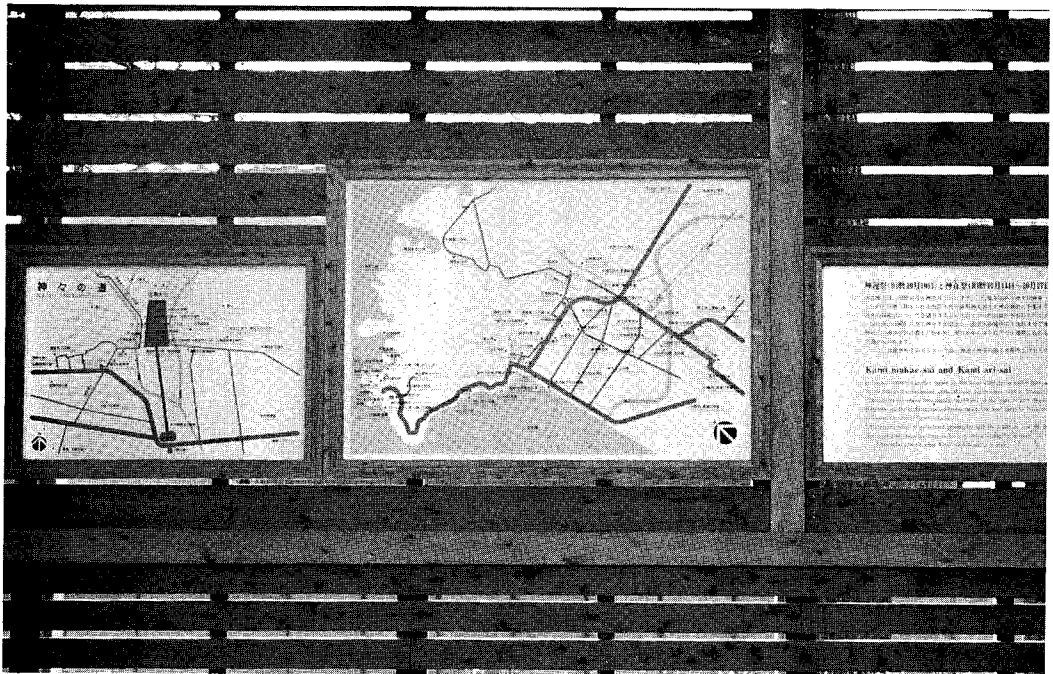
▲「夕日とうみねこ伝説」



▲「出雲阿国」

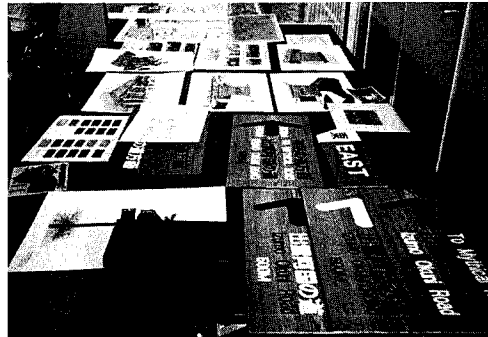
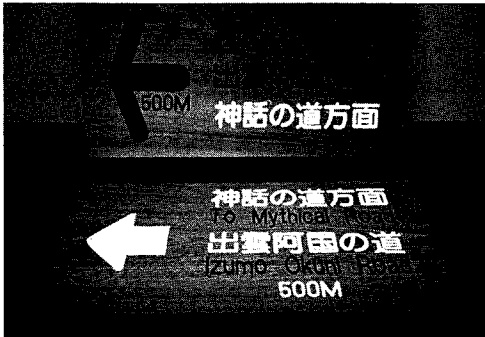
2. 町全体を紹介する総合案内板
3. 町内を6のエリアに分類し、紹介する拠点案内板
4. 主要観光スポット20ヶ所を選び紹介する説明板
5. 観光客のための誘導標識
6. 神門通りの街路灯

▼総合案内板





▲誘導標識



## VI おわりに

平成元年度に大社町役場が、単年度事業として策定して「大社町サイン整備事業計画」は、平成2年度に「島根県のまちむら活性化対策事業」の指定を受けて「島根県まちむら活性化対策事業・大社町5ヶ年計画」として継続している。

また平成2年度の大社町中小商業活性化事業は、大規模小売店舗法（大店法）の改正に

ともない、島根県中小企業振興公社が商店街活性化のためのソフト事業を支援する中小商業活性化基金による助成事業の一つとしてスタートした。大社商業共同組合は、国と県の補助事業である島根県中小商業活性化補助事業「町の歴史と風景にとけこみ、町とともに生きる店づくり」においても、門前町再興のスローガンのもとに、神門通り商店街の活性

